

山 ゆ り

5 - 6 月号 No385 2019 年 5 月 1 日

初号発行:1972 年 12 月 25 日

山ゆりの会

年会費 1000 円 (郵便口座 00230-2-42601)

〒246-0025 横浜市瀬谷区阿久和西 2-25-16 草野正昭

Tel/Fax:045-364-6515 メール:VZM03024@nifty.com

URL : <http://yamayuri.d.dooo.jp/>

■ 1 月 2 0 日 六国峠ハイキング

参加者: 稲本 遠藤 長谷川 河又 大野
小野寺 浜田 曾根 加藤 河野 細谷
神保 草野 (13 名)

● 新年山行は地元の六石峠から鎌倉までの「横浜つながりの森」を歩きました。住宅開発と高速道路で寸断され、わずかに残された樹林帯を歩くコースです。

京急金沢文庫駅を 9 時 10 分に出発、文庫駅西口から右に道路沿いに六石峠コースの案

内看板を頼りに住宅街を進むと「六石峠入り口」の看板がありました。ここから登りになるり、能見堂跡をめざしました。このハイキング道は保土ヶ谷宿につながった古道を感じることが出来ました。能見堂跡地は歴史を解説した看板や石碑があり往時の文人墨客の風流が偲ばれるところです。

ここから道はアップダウンを繰り返し金沢自然公園まで 1 時間ほどで着きました。道はよく整備されて歩きやすい道で、案内看板も良く整備されていました。自然公園を抜けた横浜の最高峰大丸山のコースは整備中のため通行禁止になっていました。迂回コースを歩き、立派なテーブル、椅子のある関谷奥見晴台で昼食をとりました。

昼食後は、北鎌倉をめざし広大な横浜霊園を横に見て歩くと間もなく天園に着きました。広場はハイカーでいっぱいでした。鎌倉天園コースは身近なハイキングコースとして人気があり、多くの人が歩いていました。道はよく踏まれていますが見板が少なく、手書き看板は古くなっており、下り口は注意が必要です。横浜側に比べ鎌倉側は看板、標識の整備に予算をつけていないようです。



北鎌倉駅へは、建長寺経由でだと拝観料500円が必要なので、明月院へ下りました。昼食の見晴台から2時間で北鎌倉駅に着きました。正月の運動不足もあり、思った以上にきついコースでした。

(河野 正典)

●金沢文庫から北鎌倉へ、まずまずのお天気で金沢文庫から今年の初歩きです。住宅街の小道、暫くすると六国峠入口の道標あり。少し登ると能見台跡地がありました。

「早春の風に誘われて、小高い丘に来てみれば、紅梅白梅水仙と、可憐な花のお出迎え」暫し足を止め花の香りいっぱいの空気を吸い込む。整備された道を進みます。この途中リーダーのほんの数年前の、青春時代の思い出話に盛り上りました。山ゆりの山行はこの道中での会話のキャチボールがとても楽しい。

金沢自然公園から金沢市民の森へと入り、関谷奥見晴台で昼食。横浜自然観察の森から横浜霊園が眼下に見える道を進みます。道標も整備され歩き安い。でもこの道標が…行く手を阻んでいたのです！この道標の行き先は北鎌倉の建長寺、半僧坊へ半僧坊へと導いているのです。山ゆりはそのコースには行きたくないのです。なぜならば、そのコースへ足を踏み入れると料金を払わなければならない。寺院内の道ゆえ、拝観料500円。私たちは必死？で北鎌倉駅方面の道標を探し、見つけました。「明月院～北鎌倉駅」やったー。無料の道を明月院脇の道で下山。この浮いた貴重な500円、何に使おうかな？

本日のコース季節を問わず、多様なコースあり気軽に行ける良い山行でした。

(稲本なお子)

■2月17日 小田原ウォーキング

参加者 小野寺 稲本 大野 河又 加藤



曾根 西村 細谷 神保 松田 草野(11名)

●戦国北条氏が豊臣秀吉の北條攻めを迎え撃つために当時の小田原の町全体を囲む総構えと呼ばれる防御態勢を築いた。その一部が残されていて、大堀切と呼ばれる巨大な土塁を歩くことが今回の目玉。

城というと石垣で囲むものと思ってしまうが、戦国時代の城の多くが土を掘ったり盛ったりして敵の侵入を防ぐ土塁が一般的だったようだ。数年前に山ゆりで登った岩櫃山の真田氏の岩櫃城にも土塁があった。もう一つ山ゆりで歩いた箱根旧街道の箱根峠から三島へ下る途中の山中城にも大規模な土塁が保存されていた。

小田原駅西口には11名が集合、登り坂の車道を城山陸上競技場目指して歩く。城山競技場を過ぎてから何人かの文学者の碑を見ながら登ると間もなく、国指定の遺跡「小峯御鐘の台大堀切」、そこが総構えの遺構の象徴でもある大堀切であり、最大幅25m、土塁の高低差12mの巨大な空堀となっている。

大堀切の入り口付近が今回の最高到達地点でもあり、空堀の中を歩いて下る。堀の中は本来通れないよう大きな仕切りがあったはずだが今は埋まってしまい歩くことができる。

大堀切の中を下ると間もなく三の丸の遺構でここも土塁の跡が残されている。ここから先小田原の町に下ってしまうのでここで昼食。

目の前に二子山など箱根の山や伊豆半島、大島までが良く見渡せる。秀吉が一夜城を築いた石垣山が目の前。

ここからは車道をグングン下り、東海道線のガード下をくぐり早川口遺構へ。早川口遺構は住宅地に囲まれてかろうじて宅地開発から免れたように残されていた。

そのあとは大きな屋敷がある西海土小路へ、江戸時代は武家屋敷、明治以降は作家文学者の別荘地だったとか。

かまぼこ通り、文字通り老舗のかまぼこ屋さんならび、その場で揚げたてを食べられる店もあるが次回に？寄るとして小田原城址公園に、この小田原城は江戸時代の城主大久保氏の城で、今見られる天守閣や主要な門などは戦後に復元されたものだ。有料の天守閣は下から見上げるだけにして小田原駅の近くにある北条氏の墓所へ、駅前にあるという北条氏政、氏照兄弟の墓所は飲食街の裏側にひっそりとあった。小田原のもとを築いた北条氏の墓にしては少し寂しい。

小田原はまだまだ歩きたいところが沢山あるいい町だ。(草野 正昭)

● 2月17日、曇り、寒さも少し和らいで楽しい小田原ウォーキングでした。

戦国時代、豊臣秀吉の小田原攻めに対し北条氏は小田原城下全体を取り囲む総構えの体制で対抗した。その総構の遺構をめぐる小田和駅西口から浄永寺、城山陸上競技場、小峯御鐘の台大堀切、三の丸新堀土塁や、途中牧野信一文学碑、井上康文の詩碑、北原白秋の足跡にも触れ、東海道線のガードをくぐり総構えの一部である早川口遺構を通り、小田原文学館はちょっと見て通過、かまぼこ通りを経て「小田原なりわい館」でお茶の休憩。ここからまもなく小田原城、堀を渡る橋の下は大きな鯉の群れ。二の丸広場から銅門を見て、本丸広場に上がり天守閣を真下から仰ぎ見る。



小田原城を後にし、小田原駅の近くにある北条氏政、氏照の墓地をお参りして小田原駅にて解散。(西村 文夫)

● (寄稿) ヤビツ峠から土山峠へ

昨年ツアーで一緒になった方に丹沢をいろいろ案内してもらっていますが、11月21日大山北尾根に誘われ出かけました。

一週間前箒沢公園橋から石棚山を経て檜洞分岐まで登った時は、久しぶりの山で4時間の登りに足が上がりずストックを支えにやっと登りました。

今回はヤビツから大山まで1時間15分頑張れば何とかかなると思い、9時10分登り始め山頂下の鳥居の左から富士山を眺め鹿よけのフェンスを脚立で乗り越えモノレールに沿って歩き、昨年下ったネクタイ尾根の分岐をやり過ぎし西沢ノ頭、ミズヒノ頭と見晴らしのいい道を下り鉄塔下で昼食、境沢ノ頭で右方向へ進みあまりはつきりしない樹林帯の道を下り一ノ沢峠から林道を歩き物見トンネルから煤ヶ谷へ下る予定でしたが、辺室山から土山峠に行かれると言われ急な階段を物見峠へ、辺室山へは40分、所々の紅葉を楽しみながら土山峠への急な道を下り16時のバスで本厚木駅に向かいました。

帰ってから地図を眺め総距離約14キロ、3万歩よく歩いたと満足しています。

まだまだ山歩きを楽しみたいので買い物は自転車か歩き、筋トレにも励んでいます。

(曾根 弘子)

花の尾瀬 バスハイク

■ 7月12日(金)ー7月13日(土)

■ コース :

7/12 : 横浜朝6:45 発一 (バス) ー大清水ー三平峠ー尾瀬沼 (泊)

7/13 : 尾瀬沼ー尾瀬ヶ原ー鳩待峠ー (バス) ー横浜

■ 募集人数 : 先着15名

6/15までに14名以下の場合中止とするかもしれません。

■ 参加費 : 2万円 (予定)

■ 宿泊 : 尾瀬沼の長蔵小屋予定

■ バス : マイクロバス (定員20名)

■ 5月案内 ; 5/19 (日) 青梅丘陵

★

標高300mから500mの軽いハイキングコースです。

・ 集合 : 朝9時15分 JR青梅線 青梅駅

青梅線 軍畑(いくさばた) 到着 9時10分 一本です。

・ 持ち物 : お弁当、雨具、ほか

■ 6月案内 : 6/16 (日) 大山古道

Ⓜ

今回は長津田から相鉄線のさがみ野駅までの大山道約10.5kmを歩きます。

・ 集合 : 朝9時 横浜線長津田駅改札 (田園都市線 長津田駅)

・ 持ち物 : お弁当、雨具、

■ 例会の予定 県民活動動サポートセンター 9F 夕方5時30分から

・ 5月21(火) : 5月例会

・ 6月18日(火) : 4月例会

あとがき ・山ゆりの尾瀬バスハイキングを計画しました。15名以上で実施できるようご協力ください。 ・下関ー北九州道路 (地元では安倍麻生道路) を塚田国交副大臣が総理副総理に付度して国直轄事業の予算を付けて辞任、続いて桜田オリンピック担当大臣が「東北復興より自民党議員の高橋さんが大事」の発言で辞任、共に担当大臣の辞任で済む話ではない。 ・4/10 自衛隊の最新鋭のステルス戦闘機 F35A が岩手県沖で訓練中

に墜落、ベテランパイロットが命を落とした。この2月の国会でコックピットの酸欠など重要な欠陥を追求した共産党の宮本議員の指摘に対し安全だと言い切った岩屋防衛大臣の責任は大きい。こんな欠陥機を一機116億円、105機、さらに垂直離着陸可能なF35Bを40数機を購入するという。社会保障費大幅削減の陰に防衛費が膨れ上がっている事実がある。

・ 山菜を囲み笑顔の山の宿 (KM)